

第303回 昭和の森自然観察会

早春の昭和の森

芳我めぐみ（千葉市）

日 時：2017年3月12日（日）13:00～15:00

参加者：27名（大人24名 子供3名） 指導員11名

担当指導員：佐野由輝 芳我めぐみ

日差しはあるものの集合場所の東屋付近は風が吹き抜けて肌寒い。暖かな陽気に花や生きものたちが活動していることを願いながら観察会を開始しました

階段を下りて菖蒲田になっている谷津田へ。風があたらない谷津田は暖かい。陽だまりにはタチツボスミレが多数花を付けていました。オオイヌノフグリ、ホトケノザなども一面に花を付けています。これらの花の草丈は低い。温められた地温を測ってみると気温より2°Cほど高い15°C、虫が活動できる温度になっています。これらの花の受粉の仕組み、保険の掛け方（閉鎖花（自家受粉）と開放花（他家受粉））などを説明すると小さな花を皆熱心に観察していました。同じ場所でコナラの芽生えも各段階を観察できました。

谷津の一番奥の池に下りる途中には冬眠から覚めたニホンアマガエル、サワガニも。池にはニホンアカガエルの卵塊が見られました。アカガエルはまだ寒い2月から3月初旬に産卵をします。卵が凍るなどのリスクがあっても天敵の少ない時期に産卵するとも考えられています。卵を産んだ後又冬眠（春眠）すると話すと納得してもらいました。

カタクリの谷の入口で北向き斜面と南向き斜面を見比べてもらいました。常緑針葉樹・広葉樹に覆われた南向き斜面に対し、北向き斜面は落葉樹が生えて林床に光がよく届いています。昭和の森においては、光が届く北向き斜面がカタクリの好む環境となっています。カタクリが一面に咲いている写真を見せ特別観察会のお知らせもしました。下夕田池に続く道では早くもコブシが白い花を咲かせています。かなり早い開花です。キブシ、クロモジは数輪開花していました。ビオトープの会の田んぼには多数のニホンアカガエルの卵塊と孵ったオタマジャクシを見るることができました。圃場整備が進んだ現在、冬季湛水の田んぼや湿地は激減してアカガエルの産卵場所は非常に少なくなっています。アカガエルの卵塊がある風景は昔よく見たので懐かしいと参加者からの感想。

下夕田池から階段を上りお花見広場へ。ここでは桜の下のタンポポの花、種子の様子を見てもらいました。花を付けた茎は首をすくめたように、種を付けた茎は遠くへ飛ばそうとすくと立っています。

「花と綿毛の中間があって種が未成熟のときは寝ていて…」と佐野さんの説明に参加者から驚きの声が。そこから寝ているタンポポを見つけては「本当だ！」と大喜びしていました。寝ているタンポポはこの日一番記憶に残った人が多かったように思われました。見るものが多く予定のコースを回りきれなかったことを担当者として反省しています。

